

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

令和4年度農作物病害虫発生予察情報について

令和4年度農作物病害虫発生予報第8号を発表したので送付します。

令和4年度農作物病害虫発生予報第8号

令和4年8月18日
徳島県

I. 普通作物

普通期水稻

斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ, ホソハリカメムシ, クモヘリカメムシ等) (8月1日付けで技術情報を発表)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多く), 発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第2半月の水田周辺雑草地における生息調査(1地点当たり捕虫網20回振り)では, 23地点のうち12地点で生息を確認した。捕獲地点率が52.2%と, 平年(43.4%)に比べてやや高く, 地点当たりの捕獲虫数は2.6頭と, 平年(1.4頭)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が8月18日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少ないと予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺雑草を, 水稻出穂の10～15日前までに除去・処分する。しかし, 出穂直前の除草は本田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになるので行わない。
- (2) 出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向があるので, 周辺雑草地や本田での発生に注意し, 発生を認めたら早急に防除を行う。
- (3) 薬剤散布については各薬剤の登録内容を確認のうえ, 出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行う。

II. 果樹

カンキツ

黒点病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で, 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第2半月の温州みかん巡回調査では, 8地点のうち6地点で枯枝から黒点病菌の発生を確認した。発生圃場率が75.0%と, 平年(32.1%)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が8月18日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少ないと予想されており, 発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 枯れ枝を極力除去する。せん除した枝は園外へ持ち出して処分し, 病原菌密度の低下に努める。
- (2) 薬剤散布において, 散布間隔の目安は1か月とする。ただし, 散布後の降水量が合計200mmを超えたときはその限りではない。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第2半旬の巡回調査では、発生圃場率が50.0%と、平年(52.3%)並の発生であるが、寄生葉率は2.9%と、平年(7.5%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が8月18日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、葉裏まで薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

ナシ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第2半旬の巡回調査では、発生圃場率が25.0%と、平年(45.5%)に比べてやや低いが、発病度は0.6と、平年(0.8)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が8月18日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 早期落葉すると樹勢を弱めるので、発生の多い園では収穫後に防除を行う。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第2半旬の巡回調査では、発生圃場率が75.0%、寄生葉率が10.6%と、平年(66.8%, 13.7%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が8月18日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生の多い園では収穫後に防除を行う。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

果樹共通

果樹カメムシ類(主に、ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ)(7月8日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多く)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 8月の予察灯調査において、勝浦町での誘殺数は、ツヤアオカメムシでは平年に比べて少なく推移しているが、チャバネアオカメムシは、平年に比べて多く推移している。一方上板町では、ツヤアオカメムシは、平年並に推移しているが、チャバネアオカメムシは、平年に比べて多く推移している(表1)。

表1 予察灯への果樹カメムシ類の誘殺数

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	勝浦町			上板町		
		2022年	2021年	平年	2022年	2021年	平年
7	1	17	11	43	43	9	17
	2	33	4	41	52	2	16
	3	9	0	52	13	0	11
	4	30	3	56	22	122	11
	5	18	6	60	15	7	7
	6	38	27	106	37	5	14
8	1	9	95	151	13	12	5
	2	9	79	159	7	68	14
	3		94	222		47	21

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	勝浦町			上板町		
		2022年	2021年	平年	2022年	2021年	平年
7	1	249	20	31	2134	29	33
	2	485	0	26	782	1	65
	3	264	0	27	316	4	55
	4	640	4	26	487	43	76
	5	241	5	27	170	9	39
	6	948	13	54	237	14	57
8	1	480	17	75	131	13	16
	2	266	17	107	78	83	23
	3		26	111		82	41

(2)高松地方気象台が8月18日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行なう。
- (2)夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3)移動性が高いので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

II. その他

- 1)防除にあたっては、圃場をよく観察し、適期を逃さないようにする。
- 2)薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujosh/>

○ 病害虫の発生予察情報，発生状況，防除法等をお知らせしています。

